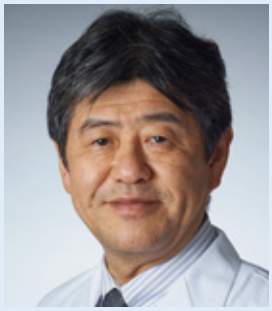
教育講演

美容皮膚科の主な手技の基礎と実際

乃木田　俊辰　のぎた皮ふ科クリニック院長
東京医科大学皮膚科客員教授



はじめに、美容皮膚科の対象は健常な皮膚であるから、病的な皮膚を対象とする皮膚科学を習得しなくても良いと認識を持つ人がいるかもしれません。この考え方は誤りであり、美容目的であれ、皮膚に対する施術を行うからには、基本的な皮膚科学を習得することが必要です。

美容皮膚科の手技は、多岐にわたっており、外科的方法（サージカル）、非外科的（ノンサージカル）に大別されます。サージカルは、主に美容外科、形成外科の医師が実施しています。今回は、ノンサージカルでの美容皮膚科的手技について解説します。

美容皮膚科的手技の代表は、レーザー治療とケミカルピーリングです。

(1)レーザー治療

A)しみの治療

まず大切なことは、シミの診断です。良性か悪性かの診断から、レーザーの適応のある状態かを判断することです。良性の場合、母斑性のものか、通常の光老化（老人性色素斑）で生じるものか、一般的にレーザー治療の適応でない肝斑かを鑑別することが重要です。

B)レーザー脱毛

火傷、炎症後色素沈着、炎症後脱色素斑、硬毛化のほか、主観的満足度のクレームなどの注意が必要です。

(2)ケミカルピーリング

皮膚にピーリング剤（グリコール酸、乳酸、サリチル酸）を塗布し、角質剥離作用、その後の創傷治癒機序により、ざ瘡、日光黒子、肝斑、炎症後色素沈着、小じわなどを改善する。

略　歴

1979年　熊本大学医学部卒業、皮膚科入局
1985年　東京大学　医学部皮膚科入局
1986年　医学博士取得（東京大学）
1993年　東京女子医科大学皮膚科准教授
　　米国ハーバード大学医学部留学
2003年　新宿南口皮膚科院長
2010年　東京医科大学皮膚科客員教授
2025年　のぎた皮ふ科クリニック院長